

寒さの中にも春の兆しが感じられる頃となり、お天気のよい日には運動場で元気に遊ぶ子どもたちの姿が見られるようになりました。学校では、大切な子どもたち一人一人が成長していけるよりよい学校にするために、児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートを基に学校評価を行っています。後期の結果と改善策、学校関係者評価委員の皆様からいただいたご意見をお知らせいたします。

	重点目標	アンケート内容	30年度前期 4段階中 当てはまる 十どちらか といえば当 てはまる	30年度後期 4段階中 当てはまる 十どちらか といえば当 てはまる	30年度後期をふまえ、学校として取り組んでいくこと
学び合っ て分ける 授業 (すすんで 考えを出す 子)	結論・根拠・理由を話し、それを聴いて反応する学び合う授業を行い、学力をつける。	①授業はよく分かる。	89.5% (児童) B	90.8% (児童) A	学年会などで、学年で協力して「課題とまとめ」<発問・問い返し・深めの発問>を準備して授業を行ってきました。「授業はよくわかる」に肯定的に答えた子ども達が90.8%に増えました。今後も、さらに「課題とまとめ」<発問・問い返し・深めの発問>を吟味し、授業づくりに取り組んでいきます。
		②聴き手を見て、語尾まで大きな声で話している。	84.0% (教員) B	86.2% (教員) B	低学年の教室に声の物差しの掲示をし、大きな声で話す習慣づけをしました。また、全学年の教室に「はい、～です。」の掲示をして、はっきり話す意識づけを行ってきました。健康調べ、詩の暗唱など日常的に声を出す活動を取り入れることで、「語尾まで大きな声で話している」について肯定的な評価が、児童アンケート・教員アンケートともに高くなりました。
		③結論を述べた後、根拠をもとに理由を説明している。	68.1% (児童) D	74.8% (児童) C	教師側がどのように話させたいかをイメージし、「どの子ども話せるには」という観点で、話し方の掲示などを利用し、授業の中で話し合う場面を意識的に取り入れてきた結果、話すことに対する苦手意識が少しずつ小さくなってきました。今後さらにB評価をめざし、「相手に伝えたい、分かってほしい」と意識させながら「伝わってうれしい、分かってもらえてうれしい」という体験を積み重ねていきます。
		④わかりました、もう一度言ってください、質問があります等、大きな声ですばやく反応している。	72.0% (教員) C	85.7% (教員) B	話し合う活動を通して、「しっかり聴こう」という意識が育ってきました。今後も、しっかり聴くことで「考えがもてるようになる」「よく分かるようになる」という体験を積み重ねていきます。
		⑤1時間の授業の既習の確認とまとめで、全員が挙手している。	80.0% (教員) B	88.5% (教員) B	授業の導入場面に既習のふりかえりを意図的に取り入れることで、全員挙手ができるようになってきました。まとめの場面でも全員挙手となれるよう、さらなる手立てを行っています。
		⑥学習したことを文や図や学習用語を使って、まとめを書いている。	84.4% (児童) B	74.8% (児童) C	自分でまとめを書くというレベルアップを図ったところ、児童アンケートでB評価からC評価に下がってしまいました。図や学習用語の使い方を丁寧に指導するとともに、自分で書けたことを認め、評価する中で、自信につなげていきたいと考えています。
		⑦既習や学習用語の掲示・提示、具体物・例を使わせて、交流前に一人一人に根拠・理由をもたせている。	88.0% (教員) B	100% (教員) A	一人一人が考えをもてるように、既習掲示や資料準備、板書計画を工夫した結果、わけを入れて話すことができる子どもが増えてきました。
基礎基本の定着	間違いを理解させて直し、基礎基本の学習を積み重ねる指導を行いそれを定着させる。	⑧間違いについて理解して直している。	84.0% (教員) B	96.3% (教員) A	間違いの傾向や間違えやすい問題について考える時間を必要に応じて取るようにしてきました。また、類似問題などに取り組みさせていきました。
		⑨単元テストが平均90以上とれている。	70.8% (教員) C	80.0% (教員) B	単元末テスト平均90点以上は、単元によっては難しいですが、学年で教材研究や資料準備をすることで、ポイントを絞った授業づくりにつながりました。
		⑩家庭学習の時間をとっている。	83.0% (保護者) B	79.2% (保護者) C	日々宿題に取り組めるよう、根気強く指導してきました。今後は、宿題を終わらせることだけでなく、学年に応じた家庭学習の時間を確保できるよう、意識させていくことが必要です。引き続き、御家庭での声かけもよろしくお願い致します。
豊かな心(やさしく心を教えず子 マナーを大切に する行動)	相手のことを思いやることができる児童を育てる。	⑪相手を思いやる行動をしている。相手のがんばりを称えている。相手の失敗や苦手を大らかに受け止めている。	91.5% (児童) A	92.1% (児童) A	道徳・学活でいじめを題材にした授業を行い、いじめは絶対に許されないことであり、された相手が心身の傷を負うことを指導しました。相手の気持ちに寄り添い、思いやることの大切さについて話し合い、いじめを許さない学級作りを行っています。価値ある行動の具体的な視点を与えるための教師発信のナイスカード、児童発信の帰りの会の「今日のナイスさん」の取り組みが少しずつ浸透してきています。これからもさらなる定着を図っていきます。
		⑫見守り隊、地域の方、来校者、先生、友達に、自分から明るい挨拶をしている。	88.8% (児童) B	91.0% (児童) A	学校内では、明るく元気に挨拶できる子どもが多いです。今後は、「目」を見るなど、「伝える」あいさつをめざしてまいります。また、見守り隊や地域の方へのあいさつはまだ十分ではない場合がありますので、全校朝会で素敵な児童を紹介するなどして意識を高めていきたいと考えています。
		⑬「どうぞ」「ありがとう」「ごめんなさい」を言っている。・場に応じて「です」「ます」という丁寧な言い方をしている。	96.8% (教員) A	100% (教員) A	丁寧な言葉遣いをする子どもが増えてきました。引き続き、ナイスカードなどを活用して、これらの言葉の大切さを伝え、できている子どもを褒めることで他へも広めていきたいです。
		⑭必要のないことは話さずに掃除をしている。	80.6% (教員) B	85.3% (教員) B	2年生と5年生で「ペアそうじ」の取り組みを試みました。ともに異学年から大きな刺激を受けており、それらの場所ではよいそうじの雰囲気が生まれています。この取り組みを全校に広げていくことを検討していきます。
		⑮廊下歩行をしている。	83.9% (教員) B	72.7% (教員) C	天気で外遊びができなくなり、廊下歩行が不十分になってきました。廊下を走る行動について根気強く指導していきます。また、児童たちで「廊下は歩く」という声かけをするような取り組みを運営委員会が中心となって進めていきます。
		⑯帰るとき、教室を移動するとき、机・椅子を整頓している。その際机の上に物を置いていない。	69.0% (教員) D	93.3% (教員) A	机、椅子の整理整頓について特に意識して指導してきましたが、机上の整頓に関してはまだ不十分であると考えています。自分自身で意識して整理・整頓ができるよう、引き続き、指導していきます。
健やかな体(力いっぱい活動する子)	力いっぱい体を動かし体力のある児童を育てる。	⑰ズックをそろえて奥まで入れている。かさを巻いて整えて入れている。	93.1% (教員) A	96.6% (教員) A	長年の指導の蓄積の結果だと考えています。今後も、定期的に写真を撮るなどして、自分たちで振り返る機会をつくってこの状態を持続していきます。
		⑱その時間のめあてを自分なりに達成しようと頑張っている。	94.3% (児童) A	93.7% (児童) A	スポーツタイムの取り組みや実技講習会を行うことで、運動量を多く取ったり、体育の楽しさを感じさせたりする職員の意識を高めました。柔軟性を高める運動を準備体操やスポーツタイムで積極的に行ったことで、男女共に11%柔軟性が向上したと思われます。今後さらに、めあてをもって運動に取り組む指導法を共有し、めあてを達成したときの「できた！楽しい！」という体験を積み重ねていきます。
		⑲その時間のめあてを自分なりに達成しようと頑張っている。	94.3% (児童) A	93.7% (児童) A	
		⑲その時間のめあてを自分なりに達成しようと頑張っている。	94.3% (児童) A	93.7% (児童) A	
		⑳柔軟性を養うための運動を授業の中で行っている。	男子平均33.2cm(男子H29県平均との差-1.3) 女子平均37.2cm(女子H29県平均との差-1.0)	男子平均36.8cm 女子平均41.2cm 11%の伸び	
㉑友達とのアドバイスの中で体育の楽しさを感じさせる場面をとっている。	90.5% (教員) A	100% (教員) A			
みんなが笑顔になる活動(みんなが笑顔になる活動を考え、みんなのために行動する児童を育てる。)	みんなが笑顔になる活動を考え、みんなのために行動する児童を育てる。	㉒みんなを笑顔にするためにどうしたらよいかを考えて、係、実行委員、委員会の活動をしている。	88.3% (児童) B	90.0% (児童) A	仕事をすることで、みんなを笑顔にするというめあてを継続して伝えていきます。そして、各行事後に係の活動での良い所見つけの場を設けることで、児童・教員共に意識が向上しています。また、委員会活動では、高学年の委員会の児童が低学年の教室に訪問し、用事を伝えたり、一緒に活動したりなど、直接触れ合える機会を多く設けたことで、低学年からの感謝が伝わり、高学年の児童は役立っていることを感じることができました。
		㉓役立っていることを称える場を、どの児童に対してもとっている。	92.3% (教員) A	96.4% (教員) A	